

地球電磁気・地球惑星圏学会

SOCIETY OF GEOMAGNETISM AND EARTH,
PLANETARY AND SPACE SCIENCES (SGEPSS)

第134号 会 報 1991年10月23日

目 次	
I 第90回総会並びに講演会報告	1
式次第	2
庶務報告	2
JGG編集委員長報告	2
議事内容	
次期開催地 次々期開催地	3
新入会員	3
II 人事公募	4
III お知らせ	5
IV 第91回総会並びに講演会案内	5
(第3回地球惑星圏連合同学会)	
☆固有セッションについて (本誌)	6
共通セッション・シンポジウム (別冊)	
最寄りのホテル等 (別冊)	
☆固有セッション申込方法 (本誌+別冊)	8

I 第90回総会並びに講演会(沖縄学会)報告

長雨の秋より一飛び、明るい空、30°Cを越える気温とハイビスカスの咲く沖縄で10月2日より3日間に開催されたこの秋の学会は全ての参加者に鮮烈な印象を残すものであった。

会期2日目、ほぼ恒例となった午前中のポスターセッションを盛会のうちに終えた。午後は開催地にふさわしく、田中高史会員の「低緯度における地球物理研究」、琉球大学の木村政昭助教授による「沖縄トラフとプレートテクトニクス」の特別講演が行われ、屋外での記念写真に引続き第90回総会は明るい太陽の誘いにもかかわらず100名に迫る出席者を得て開催された。総会は式次第に沿って諸事順調に運び、加藤評議員の謝辞で締めくくり定刻に終了した。那覇市内のホテルでの懇親会は開演(19:30)まで各自散策の後、琉球舞踊の実演を含む視、味、聴の趣向に配慮の行き届いた中での大盛会となった。

総会の諸報告・議事はIの各項(1.式次第, 2.運営委員会庶務報告, 3. JGG編集委員長報告, 4. 議事, 5. 新入会員)の通りである。

大塩大会委員長挨拶は遠来の参加者に向けた沖縄の先史より現代に至るまでの歴史、文化、社会の詳細にわたるもので感銘を与えた。

西田学会会長挨拶では、まず春の学会直後に永眠された永田武名誉会員を忍び全員で黙禱を捧げた後、その広範な業績を回顧した追悼の言葉が述べられた。また、200件を越えた予想を上回る講演数で沖縄での学会を開催することが出来たことについて参加者並びに主催者への謝意が示され、河野長会員が IAGAの Vice president に選出されことの報告があった。運営委員会報告では庶務報告の後、JGG誌の投稿数を増やすことへ会員各位への努力・協力要請がなされた。続いて議事に移り、次期開催地の京都大学関係者よりの報告、更に次々期開催地について国立極地研究所が提案され、いずれも承認あるいは受諾・承認された。

1. 式次第

開会の辞	
総会議長指名	(議長：長野運営委員)
大会委員長挨拶	(大塩大会会長)
会長挨拶	(西田学会会長)
運営委員会報告	
庶務報告	(町田運営委員)
新入会員	
JGG関係	(深尾運営委員)
JGG編集委員長報告	(小口編集委員長)
議事	
次期開催地	
次次期開催地	
謝辞	(加藤評議員)
閉会の辞	

2. 運営委員会庶務報告

春の学会以降、第163回運営委員会(既報:第133号会報)を7月12日、第164回運営委員会を10月1日に開催した。第164回運営委員会において議論、決定された主な点は次の通りである。
*日本学術会議・第15期地球電磁気研究連絡委員会の委員として会員の投票の結果、下記の方々が選出された。この旨、第14期同研究連絡委員会に連絡した。

西田 篤弘、大家 寛、行武 毅、河野 長、
小口 高、國分 征、木村 磐根、加藤 進、
荒木 徹

*次期学会誌編集委員長推薦委員会が設置された。
(JGG編集委員長報告の項参照)

*学会基金による国際交流事業(外国人招聘)候補者の運営委員による、審査・投票を行い下記2名の助成金受領者が決定した。

Dr. Byoung-Ho Ahn

Kyungpook National University
Taegu, Korea

Dr. Miroslav Krs

Geophysika S.C., Czechoslovakia

(次の国際交流事業募集メ切は12月31日です)

(1)地球電磁気・地球惑星圏学会への海外よりの参加候補者。(2)国際学術研究集会への出席補助金受領候補者。詳細については132号会報をご覧ください。)
*学協会著作権協議会への著作権委託と登録参加についての勧誘があったが著作権管理についての学会としての対応が出来ていないので継続研究事項とすることになった。

3. JGG編集委員会報告

JGG編集委員長 小口 高

1) 編集委員会での選考に基づいて、1990年のJGG (Vol.42) 掲載論文から論文奨励賞に該当するものとして、No. 7、pp 857-874、「The Flow at the Core-Mantle Boundary」が選ばれ、そのファーストオーサー、Gauthier Hulot 氏に奨励賞並びに副賞30万円を贈呈することに決まりました。同氏はフランス、地球物理研究所、地磁気研究所所属の若手研究員の一人で、この論文で以下のような生きのいい、あるいは面白い、貢献をしたものと判断しました。

この論文は地球磁場の永年変化からコア表面付近の流体運動を推定すると云う一連の研究において、運動の、地球中心と赤道面に関する対称性を導入することによって、流体運動を記述するパラメータを大幅に減らし得ることを、実際の地磁気データに基づいて示したもので、その特徴は、対称性を導入しても、一般の場合とほとんど同じように永年変化を理解できることを、実際の永年変化モデルに基づいて主張している点にあります。その結果、回転する地球核内の熱対流に現れ易い、回転軸に平行なロール軸をもつロール状対流が、よりわかりやすい形で見られることを示したものです。また、同氏は同時に、コア表面付近の流体運動の対称性を利用して、Navier-Stokes 方程式を近似的に解くことによって、コア内部の流体運動が推定できることも指摘しています。そのような流体運動を密度不均一性と結びつけて考えているのもかなり大胆な発想ですし、さらには、従来の Frozen-Flux Approximationでは表面付近の運動しか扱えないと云う従来の考えを踏み越えて、コア内部の運動をもターゲットとする大胆な発想を展開しています。

従来地球核内の流体運動の推定の多くは、ダイナモ問題との関連で Navier-Stokes の方程式を厳密に解くことに集中し、とかく理論面に偏りがちでしたが、観測データに基づいてコア内部の運動までを推定すると云う点は注目値するものと考えます。この研究内容は流体運動の厳密解と云う理論的見地からは不完全であるにせよ、今後の研究の方向を示唆している点で奨励賞に値するものと判断しました。

2) JGG投稿論文の最終原稿をTEXのフロッピーディスクで頂いて印刷時間を短縮する点については次第に軌道に乗り始めたものと考えます。既に

掲載された Letterの中には、投稿から2ヶ月で印刷されているものもあります。どうぞ会員のみなさんがこの速報性を有効に利用して下さることを希望します。

3) 依然として会員からの投稿が少ないのは気にかかることです。JGGはわれわれの学会の会誌です。もちろん、他の雑誌への投稿も大いに結構ですが、貴重な自分自身の会誌をもっと活用し、かつ盛り立てて頂くことを心から希望します。自分自身の会誌を軽く見ることは、そのまま自分の研究活動それ自身を軽く見ることと同じだと思います。

4) 私共、現編集委員の任期は来年の3月で終了します。現編集委員の何人かには引続きお願いすることになるかも知れませんが、ともかく4月以降は新しい編集委員長の下に新しい編集委員会でJGGの編集をやって頂くことになります。これまでJGGを支えて来て下さった編集委員並びに会員の皆様に心からお礼を申し上げるとともに、新しく生まれる委員会のもと、JGGの一層の発展を衷心から期待するものです。

4. 議事

☆次期・第91回総会並びに講演会

1992年4月7日より4日間、「地球惑星科学関連合同学会」として京都大学教養部での開催に向けて順調に準備が進んでいることの報告を同事務局の深尾、鳥居会員よ受けた。(詳細については、本IV誌項、及び別冊を参照)。

☆次々期・第92回総会並びに講演会

春の大会が京都で開催されることから、秋は東京地区ということで、国立極地研究所が提案され、同佐藤会員により内諾の意向が示された。

5. 新入会員

第164回運営委員会で次の方々の入会が承認されました。

(正会員)

713-1538 立原 祐司 九州大学理学部物理学科
 813-1542 今須 良一 工業技術院公害資源研究所立地環境部
 013-1548 中川 晃成 龍谷大学理工学部電子情報学科
 703-1550 笹野 泰弘 国立環境研究所地球環境グループ
 027-291-8477 Weidelt Peter Institut für Geophysik und Meteorologie

(正会員・学生)

413-1593 篠原 学 九州大学理学部物理学科
 413-1540 古川 顕正 九州大学理学部物理学科
 113-1541 川上 修司 名古屋大学大学院理学研究科宇宙物理学(第2類)専攻
 213-1544 久保田 実 東北大学理学部超高層物理学研究施設
 913-1545 小出 理史 東北大学理学部超高層物理学研究施設
 613-1546 西川 拓 東北大学理学部超高層物理学研究施設
 313-1547 藤原 均 東北大学理学部超高層物理学研究施設
 713-1549 野沢 恵 名古屋大学太陽地球環境研究所

学会会員数(1991年10月現在)

正会員	正会員(学生)	名誉会員	賛助会員	外国会員
544	99	5	18(32口)	54

II 人事公募

名古屋大学太陽地球環境研究所教官公募

公募人員：教授 2 名

所属部門：大気圏環境部門および

太陽圏環境部門各 1 名

公募分野：

大気圏環境部門では、主として分光学的手法を用いて大気化学関連の研究を指導的に進めて頂ける方。

太陽圏部門では、主として実験的手法により宇宙線ミュー粒子を使って太陽圏構造研究を推進して頂ける方。

なお、大学院学生の教育及び研究指導にも意欲的な方を希望します。

着任時期：決定後できるだけ早い時期

提出書類：履歴書、研究歴、業績リスト、主要論文別刷、研究計画書並びに、自薦の場合は本人について意見を述べられる方 2 人の氏名と連絡先、他薦の場合は推薦書

公募締切：平成 3 年 1 2 月 2 5 日

候補者の選考：名古屋大学太陽地球環境研究所人事委員会の選考に基づき、同運営委員会の意見を求めて同教授会で決定します。なお、該当者のない場合は決定を保留します。

宛先、問い合わせ先：

〒442 愛知県豊川市穂ノ原 3-13

名古屋大学太陽地球環境研究所

所長 小口 高

電話05338-6-3154

名古屋大学太陽地球環境研究所教官公募

公募人員：助教授 3 ないし 4 名

所属部門：大気圏環境部門 1 名

電磁気圏環境部門 1 ないし 2 名

太陽圏環境部門 1 ないし 2 名

公募分野：

大気圏環境部門では、主として大気の化学物理過程、大気の放射過程、大気中の不均一過程の実験・観測的研究を推進して頂ける方。

電磁気圏環境部門では、レーダなどを用いたグローバルな電磁気圏環境の実験・観測的研究を推進して頂ける方。

太陽圏環境部門ではフレアーに関わる太陽中性子分野に新しい観点を導入し、実験的研究を積極的に推進して頂ける方。

なお、大学院学生の教育及び研究指導にも意欲的な方を希望します。

着任時期：決定後できるだけ早い時期

提出書類：履歴書、研究歴、業績リスト、主要論文別刷、研究計画書並びに、自薦の場合は本人について意見を述べられる方 2 人の氏名と連絡先、他薦の場合は推薦書

公募締切：平成 3 年 1 2 月 2 5 日

候補者の選考：名古屋大学太陽地球環境研究所人事委員会の選考に基づき、同運営委員会の意見を求めて同教授会で決定します。なお、該当者のない場合は決定を保留します。

宛先、問い合わせ先：

〒442 愛知県豊川市穂ノ原 3-13

名古屋大学太陽地球環境研究所

所長 小口 高

電話05338-6-3154

人事公募（続き）

宇宙科学研究所教官募集

公募人員：助教授 1名

所属部門：太陽系プラズマ研究系磁気圏プラズマ物理部門

専門分野：飛翔体を用いた地球及び太陽系惑星の上層プラズマの研究。

当該研究系では、大学共同利用機関として全国の当該分野の研究者と共同で「あけぼの」衛星を使った極域現象の研究、磁気圏尾部の研究を目的としたGEOTAIL衛星の開発を進めている。更に、これら地球周辺環境の研究を他の惑星大気の研究まで広げるために火星上層大気の研究を目的としたPlanet-B計画も次の計画として進めつつある。大学共同利用機関としての本研究所の任務を十分理解し、当該分野の科学衛星プロジェクトを中心とした共同利用研究計画立案・遂行に積極的役割を果たす方を希望する。

着任時期：決定後出来るだけ早い着任を希望します。

提出書類：（1）略歴、（2）研究歴、

（3）論文リスト および主要論文別刷り

（4）研究計画（自薦の場合のみ）

（5）推薦書2通（他薦の場合）、自薦の場合には本人について述べられる方2名の氏名および連絡先。

公募締切：平成4年1月6日 必着

宛先：

1. 宇宙科学研究所 所長 西村 純

〒229 神奈川県相模原市由野台3-1-1
電話（代表）0427-51-3911

2. 問い合わせ、及び資料の請求については下記に願います。

太陽プラズマ研究系主幹 鶴田 浩一郎

内線 2503

その他：選考は宇宙科学研究所運営協議委員会において行います。応募者に適任者がいない場合、決定を保留する場合があります。

封筒の表に「助教授応募（推薦）書類在中」と朱書きして下さい。

III お知らせ

Rock Magnetism and Oakeigeophysics vol.18 (1991)の原稿を募集致します。岩石磁気・古地磁気や地球磁場に関係した研究、さらにテクトニクス関係の研究などの progress report や投稿中の論文の extended abstract を歓迎いたします。

投稿先は、〒133 東京都文京区弥生2-11-16

東京大学理学部地球惑星物理学 浜野 洋三

締切は今年12月25日（必着）です。投稿要領は従来と変わりませんが、近日中に岩石磁気・古地磁気グループの方にはメモが送られます。

また、vol. 8,9,10,13,14,16,17 につきましてはまだ残部が若干ございます。ご希望の方は小額切手で760円（500+〒260）を添えて、

〒606-01 京都市左京区北白川追分町
京都大学理学部地質学鉱物学教室 鳥居雅之
にお申し込みください。

IV 第9-1回総会ならびに講演会のお知らせ

第9-1回春季大会を京都大学のお世話で京都大学教養部キャンパスにおいて開催します。昨年、本年度の春の大会（1990、91年）に引続き「地球惑星科学関連学会合同大会」となります。合同大会の参加学会は、前回と同様に、地球電磁気・地球惑星圏学会、地震学会、日本火山学会、日本測地学会、日本地球化学会の5学会です。

研究発表の申込方法や大会の運営方法は、通常の大大会や1991年合同大会とほぼ同じですが、合同セッション、シンポジウム、宿舎の予約（なるべく早く）については別冊の地球惑星科学関連学会連絡会ニュース（合同大会特集号）をご覧ください。

当学会固有セッションの申込については、この会報の最終ページにある注意書きをご覧の上上記別冊の申込用紙（様式が変わりました）に申込希望セッションの小区分をご記入下さい。

記

- 1 地球電磁気地球惑星圏学会・地球惑星科学関連学会1992年合同大会
日時：1992年4月7日（火）～10日（金）
場所：京都大学教養部 D、E号館を中心に
（〒606-01 京都市左京区吉田二本松町）
- 2 研究発表申込締切日： 共通・固有セッションともに1992年1月25日（土）（厳守）
- 3 大会参加費：大会参加者には参加費を払っていただきます。入場初日に、受付で一般1000円、学生500円を支払い、名札を受け取ってください。

4 セッションの区分：研究発表は、合同大会共通セッションと地球電磁気・地球惑星圏学会固有セッションに大別して行われます。また、合同大会5学会に加えて日本気象学会、日本岩石鉱物学会、日本鉱物学会の一部共催のシンポジウムが企画されています。共通セッション、シンポジウムの内容については別冊をご覧ください。地球電磁気・地球惑星圏学会会員は、共通セッションと地球電磁気・地球惑星圏学会固有セッションにおいて、合計2題まで研究発表のスピーカー（口頭発表の演者、ポスター発表の説明者）になることができます。地球電磁気・地球惑星圏学会固有セッションのスピーカーは会員に限ります。ただし、各セッションで企画される招待講演には、これらの規定は適用されません。

5 地球電磁気・地球惑星圏学会固有セッション

1. 締切日：1月25日（土）必着です。締切日以降に到着した申込は自動的に却下いたします。電話やFAXによる申込や遅延依頼は受け付けません。
2. 裏表紙の講演申し込みの注意書きに従い、別冊申込用紙にご希望のセッション番号を漏れなく記入してください。コピー添付もお忘れなく。
3. 非会員のみによる講演申込は受け付けません。筆頭著者（ファーストオーサー）になれるのは1人1講演に限ります。ほぼ同じ内容の講演を、筆頭著者だけを取り替えて複数の講演として申し込むのはおやめ下さい。
4. 予稿原稿は、別冊8ページの共通様式に従ってください。規定の枠にあうようにA4用紙に鮮明にコピーなどされても結構です。
5. 予稿本文が日本語の場合は、枠に規定されているように2段組にされると、印刷後読みやすくなります。
6. プログラム編集を迅速に行えるように、予稿原稿のコピーを必ず1部同封してお送り下さい。

固有セッション講演申込・予稿原稿送り先

☆太陽・惑星間空間、地球・惑星電磁圏、および地球・惑星大気圏関係

小川 忠彦 宛

〒311-12 茨城県那珂湊市磯崎町3601

通信総合研究所平磯宇宙環境センター

☆地球内部および月・固体惑星関係

乙藤 洋一郎 宛

〒657 神戸市灘区六甲台町1-1

神戸大学理学部地球科学教室

7. 口頭発表の時間は15分（講演12分、質疑3分）以内です。

8. 限られた会期を有効に利用するために、ポスターセッションに特に分野を定めずに約50件の発表を予定しておりますので、奮ってお申込下さい。ポスター発表・口頭発表の区分はご希望にできるだけ従いますが、プログラム構成の都合上ご希望の区分以外での発表をお願いすることがありますので、ご協力下さるようお願いいたします。

9. ポスターの掲示板は、縦180cm、横120cmのパネルボードです。画紙・セロテープなどは会場に用意いたします。

10. 緊急の話題のために、約5件のポスタースペースを確保いたします。発表希望者は3月28日までに関係のプログラム委員に申し込んで下さい。

11. 各セッションの座長を2名とし、講演会の進行を能率的に進めていきたいと思っておりますので、ご協力お願いいたします。

12. 共通セッション：締切日は1月25日（火）必着です。内容、研究発表申込要領については、別冊を参照してください。

その他

1) 講演会場では、35mmスライドプロジェクター1台とオーバーヘッドプロジェクター1台が使えます。

2) 研究発表に関連してビデオを映写したい方は、別冊講演申込用書の該当欄にその旨を書いてください（所用時間とビデオの種類も）。また、研究発表と関係なく、ビデオの上映だけを希望する方は、目的・内容・所要時間・ビデオの種類を明記して、1992年2月29日（土）までに学会事務所へお知らせください。ただし、映写装置等は目下検討中ですので、ご要望にそえない場合もあります。

3) 総会の議題の申込は2月29日（土）迄に会長宛書面をお願いいたします。

注) 地球電磁気・地球惑星圏学会は

S G E P S S と略記されています。

☆大会期間中の必要な各種の研究集会や会合の会場等の予約は別冊5ページに従ってください。

☆最寄りのホテル等は別冊の連絡会ニュース（合同大会特集号）をご覧ください。

<<会報へのご提案、ご意見、情報提供、
寄稿（特に学会の歴史に関する事など）
常時受付けていますので宜しくお願い致します。>>

地球電磁気・地球惑星圏学会

会長 西田 篤弘

総務 町田 忍

〒229 神奈川県相模原市由野台3-1-1 宇宙科学研究所
電話 0427-51-3911 FAX 0427-59-4326

庶務 林 幹治

〒113 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学理学部地球惑星物理学科STP
電話 03-3815-8020 FAX 03-3818-0745
電子メール hayashi@grl.s.u-tokyo.ac.jp

運営委員会

〒113 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル
(財)日本学会事務センター内
電話 (03)817-5801 FAX (03)817-5800

学会入会申込、国際学術交流事業への応募は運営委員会宛、田中館賞推薦は会長宛、研究助成金案内は総務までご連絡下さい。

SGEPSS固有セッションへの講演申し込み

●まず、同封の地球惑星科学関連学会連絡会ニュースNo.2の「講演申し込み注意事項」、「講演申し込み用紙」、「予稿フォーマット」などをご覧ください。

●固有セッションの申込先（締切：1992年1月25日）

□ 太陽・惑星間空間、地球・惑星電磁圏、および大気圏関係

〒311-12 茨城県那珂湊市磯崎町3601 通信総合研究所平磯宇宙環境センター
小川 忠彦 (Tel:0292-65-7121 Fax:0292-65-7209)

□ 地球内部関係

〒657 神戸市灘区六甲台町1-1 神戸大学理学部地球科学教室
乙藤 洋一郎 (Tel:078-881-1212 Fax:078-882-1549)

●SGEPSS固有セッションで講演される場合は、講演申し込み用紙の「小区分」の欄に以下の発表分野の区分を示す記号を記入してください。A~Dのうちからは1つ、およびそれに属するセッション番号を選んでください。セッション番号についてはできるだけ第2希望を()に入れて示してください。[記入例：A-1 (2, 3)など]

A 地球内部： 1.主磁場 2.電気伝導度 3.磁気異常 4.岩石磁気・古地磁気
5.その他

B 太陽・惑星間空間： 1.太陽・太陽大気 2.太陽磁気圏構造 3.惑星間空間擾
4.宇宙線 5.太陽風・磁気圏相互作用 6.その他

C 地球・惑星電磁圏： 1.磁気圏構造 2.電離圏構造 3.磁気圏電離圏結合
4.オーロラダイナミクス 5.磁気圏プラズマ波動 6.ULF波動
7.惑星電磁圏 8.その他

D 地球・惑星大気圏： 1.大気圏力学 2.大気圏化学 3.大気圏放射 4.惑星大気
5.その他

惑星科学および地殻活動電磁気学は共通セッションが企画されております。

.....
地球電磁気・地球惑星圏学会 総会委任状

第91回の議決に関し、_____ 会員（記入なき場合は議長）に委任いたします。

氏名 _____ 所属 _____